



衣川 寛介

## 『明延 (あけのべ) の鉱石』

Industrial Heritage  
Open air Museum

神子畑 (みこばた) の鑄鉄橋の下側にイギリスの地名『Glasgow』の刻印が見える、と昔ある本の記事を見た。その刻印を是非見たいと思って、河原に降り橋の部材を丹念に調べたが発見出来なかった。

その時、河原の石コロがバラエティーに富んでいる事に気がついた。赤サビ色の中に鮮やかな緑色を含んだもの。黒色と茶色の細い線が平行に綺麗に並んだもの。白い石英を含み、青みを帯びたもの。赤・白・黒・茶・緑・青、いろいろな色を現しています。手頃な大きさのものを数個、川で洗って拾って帰りました。集合場所に少し早く着いたので、明延振興会館の喫茶店「一元電車」でコーヒーを一杯、窓際のショーケースに研磨された 5~10kgほどの鉱石が10ヶ入っています。黄銅鉱・黄鉄鉱・磁鉄鉱など、私が興味を持っている鉱石をテーブル上に取り出し磁石でつけてみました。黄銅鉱の研磨された面に黒色の部分があります。ここは磁鉄鉱を含んでいるに違いないと思い磁石を近づけるとピタッとつきます。予想的中、黄銅鉱には部分的に磁鉄鉱を含んでいるものがあるのです。『この鉱石が欲しいのですが』とマスターにお願いしましたが、『預かり物なので私が決める訳にはいかないのです。』と断られました。

鉱山見学のあと、当時使われていた大浴場、ボタ山や小さな鉱脈の露頭など、案内して頂きました。道端に落ちていた石コロを拾い上げ『この石を見てください。磁石もつくかな、この金色の部分黄銅鉱ですよ。』早速磁石で確認、磁石につきました。明延には色々な鉱石があるそうです。特別に昔の従業員宿舎に展示されている、谷口様の貴重な種々の鉱石を見学しました。

明延鉱山は明治時代末期に発見された大量のスズ鉱石が一番有名ですが、銅、亜鉛、鉛、タングステンなど多くの非鉄金属鉱脈をもつ鉱山です。鉱山見学の前に訪問した両松寺の梵鐘は、戦国時代末期、文禄 5年 (1596年) 明延鉱山で採れた銅を用いて作ったと説明されていました。

### 一元電車

明延鉱山の鉱石を神子畑の選鉱所に運ぶためにつくられた約 6kmの鉱山列車で、鉱石と従業員を運んだ。正式な名前は「明神電車」ですが、昭和27年 (1952年) から、「一元」の乗車賃で乗客を運んだことから、「一元電車」として有名になった。大正元年 (1912) 年、開通。

### 神子畑の鑄鉄橋



### 神子畑の石コロ



磁石についた黄銅鉱



赤○は黄銅鉱

青○は磁鉄鉱

### 明延の鉱石



黄銅鉱

明延鉱山産

明延鉱山 一元博物館

磁鉄鉱

明延鉱山産

明延鉱山 一元博物館

方鉛鉱

明延鉱山産

明延鉱山 一元博物館

来て! 見て! ふれて!

ふしぎ体感

『鉄のふしぎ博物館』



姫路城 大天守

2016.03.01

